

た態度がどれほど大切かを話して下さった。それは、子供が幼い時期に急いで結果を求めるより、家庭にあって家族とともに時間を過ごすことが最良の選択であるというご意見とうかがった。

初めてお会いした時から15年以上経過したが、先生は当時と変わらず若々しくいらっしやる。ご退官なさった後も、末永く私達のことを見守っていただきたいと願っている。

千歳先生の思い出

落合優子

「お台場海浜公園行き、まもなく出航です。」

職場の隣にある水上バス乗場（浜松町日の出棧橋）のアナウンスと、楽しそうな観光客の声が今日も耳に響きます。

大学に入学した頃から脚光を浴び始めた臨海副都心。そこで働きたいという私の夢を、千歳先生が叶えて下さったと言っても過言ではありません。

臨海副都心（の一部）の属する港区をフィールドとして卒論を書くにあたりご指導をお願いした日、まだ希望の進路の定まらない私に先生はおっしゃいました。

「あなた、都庁にしなさいよ」

当時、都庁からお茶大にいらしたばかりの先生が、「男女差を感じることなく、大都市東京を舞台に様々な分野の仕事ができる」と勧めて下さったおかげで、私は現在都職員となり、東京港の管理に携わっております。

先生には、中央卸売市場や、当時再開発計画途上だった汐留貨物線跡地、船での東京港見学などの巡検を通して「東京」を多角的に捉える姿勢を教えてくださいました。この貴重な経験を誇りに思い、職務を行う上での糧としていくつもりです。

今でこそダジャレで有名でいらっしやるようですが、当時まだお役人という印象が強かった先生との1対1のゼミは大変緊張しました。しかし、茗荷谷駅前の居酒屋で偶然隣りの席になった日のこと、真っ赤なお顔をされた先生の口調

が非常に滑らかになっているのを見て、普段とのギャップに驚く反面、親近感さえ覚えました。実は、先生は「人とお話しすること」が大変お好きなようで、それは新入生の顔と名前、出身をすぐに覚え、卒業したゼミ生の近況を気にかけて下さることに表れているように思います。

卒論提出後、ゼミ生全員をご自宅にお招き頂いたこともありました。奥様の手料理に舌鼓を打ち、先生の学生時代から社会人としての心構えに至るまで様々なお話を伺いながら、ふと大学を卒業する寂しさに包まれたのがつい先日のごとくに思い出されます。その数日後に行われた卒論発表会では、他の先生方からの厳しい質問に答えきれない私に数々の助け船を出して頂いたおかげで何とかその場が収まり、先輩がおっしゃっていた「よく学生の面倒を見て下さる」先生に最後まで甘える形となってしまいました。

先生にとって記念すべき初代のゼミ生でありながら、不勉強でご迷惑とご心配をかけ通じた私ですが、都市計画について熱っぽく語られる先生のお姿を胸に刻み、よりよい東京づくりに貢献していくことがささやかな恩返しだと考えております。

最後になりましたが、千歳先生、8年間お疲れさまでした。ますます健康に留意され、今後とも私達卒業生へのご指導の程よろしくお願ひ致します。